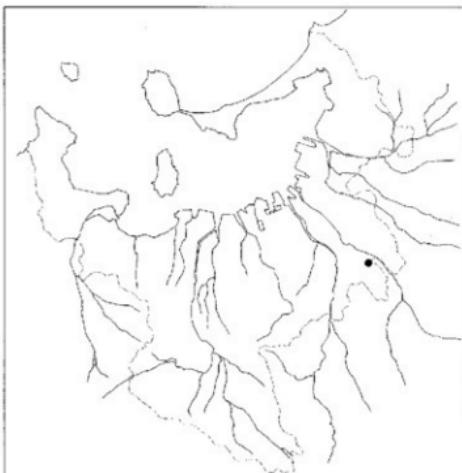


# 麦野A遺跡

— 麦野A遺跡群第8次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第774集



遺跡略号 MGA-8  
遺跡調査番号 0005

2003

福岡市教育委員会

## 序

現在、アジアにより一層開かれた活力のある国際都市を目指し、まちづくりを進めている福岡市は、古くからアジア大陸との交流を通じて発展してきました。本市では、この交流を物語る文化財の保護、活用に努めていますが、開発によりやむを得ず失われていく遺跡については、記録保存のための発掘調査を行っています。

本書は、博多区麦野における分譲住宅建設に先立って行われた麦野A遺跡第8次調査を報告するものです。調査の結果、古代の遺構、遺物が発見され、当時の生活を復元する上で多大な成果を挙げることができました。

最後になりましたが、発掘調査から整理、報告に至るまで、地権者である長沼廣臣様をはじめ建設及び地元の方々には多大なご理解とご協力をいただきました。ここに感謝の意を表するとともに、本書を文化財保護や普及、教育などに活用していただければ幸甚に存じます。

平成15年3月31日

福岡市教育委員会  
教育長 生田 征生

# 例　　言

1. 本書は福岡市博多区麦野3丁目10-10における分譲住宅建設に先立ち、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成12年4月10日から5月1日にかけて発掘調査を実施した麦野A遺跡第8次調査の報告である。
2. 検出した遺構について、住居址はSC、掘立柱建物はSB、ピットはSPとし、掘立柱建物、ピット以外は一括して通し番号を付した。
3. 本書に掲載した遺構の実測は担当の井上嗣子の他、吹呑憲治、桑原美津子が、写真撮影、製図は井上が行った。
4. 本書に掲載した遺物の実測、製図、写真撮影は井上が行った。
5. 本書の執筆、編集は井上が行った。
6. 本調査の出土遺物、記録類は福岡市埋蔵文化財センターで収蔵、管理されるので活用されたい。

遺跡調査番号	0005	遺跡名	MGA-8
調査地番	福岡市博多区麦野3丁目10-10		
開発面積	1,455m <sup>2</sup>	対象面積	200m <sup>2</sup>
調査期間	2000年4月10日～5月1日	分布地図番号	24・25・26-0048

## 目　　次

### —本文目次—

I.はじめに	II.調査の記録
1. 調査に至る経過	1. 調査地点の位置
2. 調査体制	2. 調査概要
II. 遺跡の立地と環境	3. 遺構と遺物
1. 遺跡の立地と周辺の遺跡群	①住居址
2. 麦野A遺跡群これまでの調査	②掘立柱建物
	4. 小結

### —挿図目次—

第1図 麦野A遺跡群と周辺の遺跡 (1/25,000)… 3	第6図 SC02実測図 (1/40)、出土遺物実測図 (1/3)… 8
第2図 麦野A遺跡群調査地位置図 (1/4,000)… 4	第7図 SC03・SC04実測図 (1/40)、出土遺物
第3図 調査区位置図 (1/400)… 5	実測図 (1/3)… 9
第4図 遺構平面図 (1/100)… 折り込み	第8図 SB01実測図 (1/60)… 10
第5図 SC01実測図 (1/40)、出土遺物実測図 (1/3)… 7	

### —表目次—

表1 麦野A遺跡群調査一覧	2
---------------	---

### —図版目次—

図版1	1. 調査区全景 (東から) 2. SC01 (南から) 3. SC01 貼床除去後 (北から)
	4. SC01 内壁出土状況 (南から) 5. SC01 内壁断面 (南から)
図版2	1. SC02 (西から) 2. SC02 出土状況 (西から) 3. SC02 壁面 (西から)
	4. SC02 壁下面出土状況 (西から) 5. SC02 壁下焼土断面 (北から)
	6. SC02 貼床除去後 (北から) 7. SC02 出土遺物
図版3	1. SC04 (東から) 2. SC04 貼床除去後 (東から) 3. SC04 壁出上状況 (東から)
	4. SC04 壁断面 (東から) 5. SC04 壁下面焼土断面 (東から) 6. SC03 (東から)

# I. はじめに

## 1. 調査に至る経過

1999年11月24日付で隆建設より、分譲住宅建設に先立ち、福岡市博多区麦野3丁目10-10における埋蔵文化財の有無について事前審査申請が提出された。申請地は麦野△遺跡群の範囲内であることから、埋蔵文化財課で敷地内における試掘調査を行った。その結果、現地表下約20～40cmで鳥栖ローム層上面となり、竪穴住居址、土坑、柱穴などの遺構が検出された。この成果をもとに協議を行い、敷地内の道路部分においてはやむを得ず発掘調査を行い、記録保存をはかることとした。また、隆建設との間に発掘調査及び資料整理に関する受託契約を締結した。発掘調査は2000年4月10日～5月1日の間に行なった。

## 2. 調査体制

**調査委託** 隆建設

**調査主体** 福岡市教育委員会 教育長 生田征生

**調査総括** 埋蔵文化財課長 山崎純男

調査第2係長 力武卓治（前）田中壽夫（現）

**調査庶務** 御手洗清

**事前審査** 加藤隆也 大塚紀宣

**調査担当** 試掘調査 杉山富雄 加藤隆也

発掘調査 井上蘭子

**調査作業** 伊藤美伸 乾俊夫 桑原美津子 高着一夫 志堂寺堂 柴田博

林厚子 吹春憲治 藤原直子 水野由美子 森本良樹

**整理作業** 穴井加菜子 川田京子 日下部由美子 桑野綾子 坂井かおり

佐々木涼子 藤信子 橋本麻里 福島由衣子 牧野ミワ 山口とし子

このほか、発掘調査に至るまでの条件整備、調査中の調整等について地権者の長治廣臣様、隆建設の皆様には多大なご理解とご協力をいただきました。ここに深く感謝いたします。

## II. 遺跡の立地と環境

### 1. 遺跡の立地と周辺の遺跡群

福岡平野は、東から南にかけて青振、三郡山塊に囲まれ、北は博多湾に面し、南北に延びる丘陵と沖積平野を交互に連ねて形成される。その沖積平野を、西から室見川、樋井川、那珂川、御笠川、宇美（多々良）川が貫流し、それぞれの河川により開拓された丘陵や段丘によって画された小平野が形成される。ここでいう狹義の福岡平野とは、御笠川、那珂川流域の旧席田郡の一部、那珂郡、御笠郡に当たる部分で、この福岡平野を中心として周辺に重要な遺跡群が点在する。

麦野A遺跡群は、福岡平野を流れる御笠川の中流左岸、那珂川との間の南北に延びる丘陵上に位置する。この丘陵は春日丘陵から延びてくる洪積台地であり、沖積面への埋没や浸食によって八つ手状を呈する。丘陵は約7万年前の阿蘇火山のカルデラ形成期に噴出した火砕流（Aso-4火砕流）によって形成されたものである。火砕流による堆積物は、大部分は白色粘土化した八女粘土層で、その直上には黄褐色軽石質火山灰（鳥栖ローム層）が覆っている。麦野A遺跡群は、この鳥栖ローム層を基盤とする。

丘陵上には、北から麦野A遺跡群、麦野B遺跡群、麦野C遺跡群、南八幡遺跡群、雜餉隈遺跡群が分布する。周辺の遺跡群を概観してみる。麦野B遺跡群では、旧石器時代の石器群、縄文時代と思われる落とし穴、古代の堅穴住居址、掘立柱建物、井戸、中世の土坑が各調査で検出されている。麦野C遺跡群では、旧石器時代の石器群、弥生時代の住居址や壙坑、古代の住居址、溝、土坑、中世の土壙墓、溝などが確認されている。南八幡遺跡群では、縄文時代と思われる落とし穴、弥生時代の住居址、土坑、古墳時代の住居址、溝、古代の住居址、掘立柱建物、土坑、溝が検出されている。雜餉隈遺跡群では、旧石器時代の石器群、弥生時代の住居址、貯藏穴、古代の住居址、掘立柱建物、井戸、溝、土坑が検出されている。

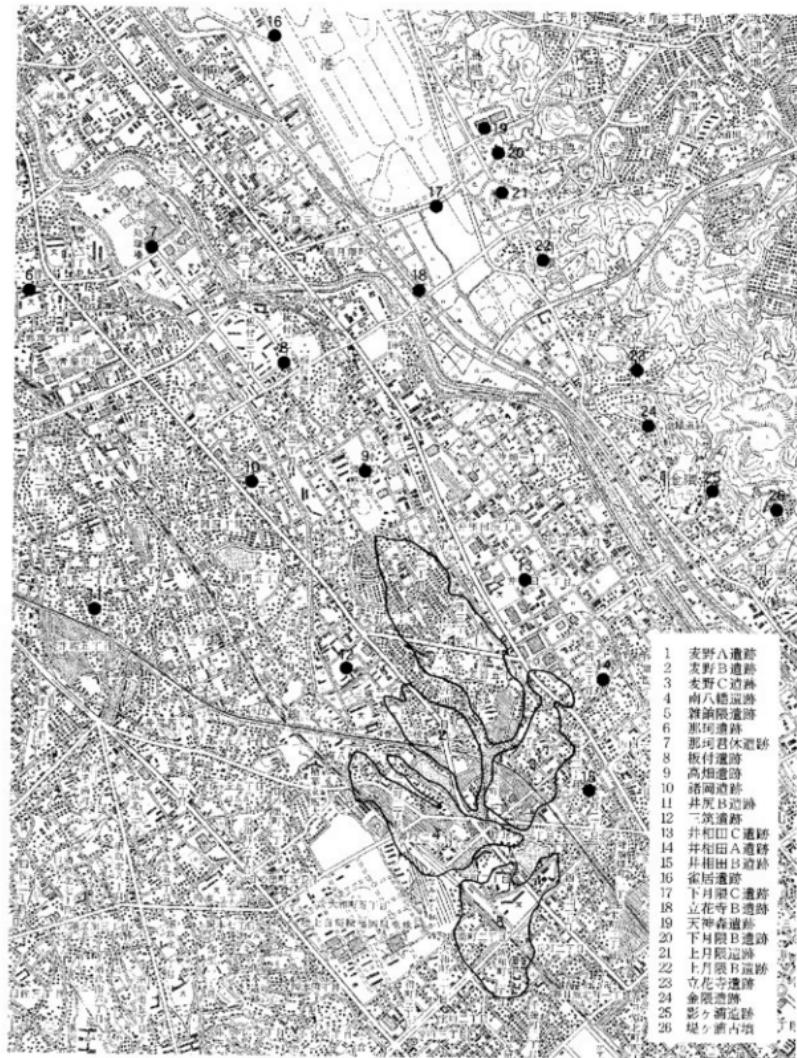
以上のように、麦野A遺跡群と同じ丘陵上に立地する遺跡群は、旧石器時代から中世に至るまでの遺構がみられるものの、縄文時代、古墳時代の遺構は少なく、古代を中心とした時期に発展しているといえよう。

### 2. 麦野A遺跡群のこれまでの調査

麦野A遺跡群は今回が第8次の調査となるが、今までに13次の調査が行われている。

表1 麦野A遺跡群調査一覧

次数	番号	所 在 地	面積(㎡)	調査期間	調査原因	主な検出遺構	文 献
1	8232	博多区麦野1丁目28-56	570	820921～830526	公民館建設	中世後半の堅穴柱建物、井戸、堅穴住居址、溝、ビット	市報第107集
2	8337	博多区麦野5丁目24	80	830715～830723	駐車場建設	近世の井戸、土坑	
3	9116	博多区麦野4丁目14-23	247	910710～910810	共同住宅建設	古墳時代の堅穴柱建物、二丸、中世後半の堅穴柱建物、土壙墓、土坑	市報第275集
4	9316	博多区麦野1丁目27-3, 5	134	930615～930624	事務所兼住宅建設	奈良時代～平安時代の井戸、ビット	市報第409集
5	9412	博多区麦野1丁目27-1, 2	6	940411～940412	共同住宅建設	古代の井戸、土坑	年報9
6	9624	博多区麦野3丁目11-29	244	980701～980716	専用住宅建設	古代～中世の土塙、溝、堅穴住居址、井戸、ビット	年報13
7	9972	博多区麦野5丁目2-33, 36	450	000313～000502	専用住宅建設	西周の堅穴柱建物、堅穴住居址、門限、印鑑、金玉造、金玉造	年報15
8	0005	博多区麦野3丁目10-10	178	000410～000501	分譲住宅建設	古代の堅穴住居址、掘立柱建物、ビット	市報第774集
9	0031	博多区麦野3丁目9	62	000818～000825	駐車場建設	中世の溝、土坑、ビット	年報15
10	0061	博多区麦野5丁目2-33	404.5	010117～010317	共同住宅建設	古代の堅穴柱建物、堅穴住居址、門限、印鑑、金玉造	市報第719集
11	0139	博多区麦野4丁目11-5	130	011120～011201	専用住宅建設	落とし穴式遺構、古代の堅穴住居址	年報16
12	0155	博多区麦野3丁目11-28, 57他	80	020130～020203	専用住宅建設	溝、ビット	年報16
13	0156	博多区麦野2丁目1-8	250	020218～020309	宅地造成	古代の堅立柱建物、堅穴住居址、古墳時代の土塙	年報16



第1図 麦野 A 遺跡群と周辺の遺跡 (1/25,000)



第2図 麦野A遺跡群調査地点位置図 (1/4,000)

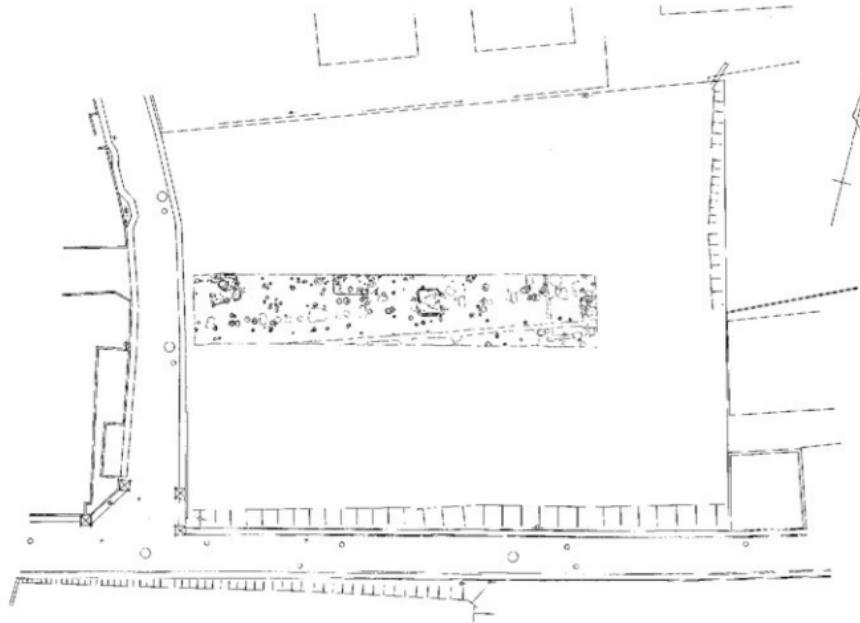
### III. 調査の記録

#### 1. 調査地点の位置

本調査地点は遺跡群の中央や北東寄りに位置し、台地の落ち際に位置する。調査地点の西側には古代の住居址、井戸、土坑、中世の土坑、溝が検出された第6次調査地点、南側には官衙関連の遺構が検出された第7次調査地点、古代の住居址、土坑、掘立柱建物、溝が検出された第10次調査地点が位置する。現地表下約20cm、標高約14.9～15.4mの鳥栖ローム層上面が遺構面となり、調査区の南西から北東に向かって傾斜する。台地の縁辺部に当たると思われる。

#### 2. 調査概要

麦野△遺跡第8次調査は、2000年4月10日にバックホーによる表土剥ぎから開始した。調査範囲は将来的に道路になる部分のみであったため、敷地内に余裕があり、調査範囲すべての表土を一度に除去し遺構面を検出した。遺構面は現地表下約20cmであったが、調査区西側に向かうほど遺構面までの深さは浅くなり、現道路に近い部分は表土直下で検出された。そのため、遺構はほぼ全面で検出されたものの住居址はほとんど床面のみの残存状況であった。搅乱、遺構の掘削と平行して、1/200、1/100での平板による周辺測量、1/20、1/10での遺構平面図の作成、写真撮影を行い、5月1日に調査区の埋め戻し、撤収を行い、調査を終了した。



第3図 調査区位置図 (1/400)

### 3. 遺構と遺物

#### ①住居址

住居址は4軒検出されている。以下順を追って説明する。

#### SC01 (第5図)

調査区西側端で検出された。平面形は2.4m×2.2mのほぼ正方形を呈する。住居址の北側、南側、東側コーナーに各々周溝が残存している。東側コーナー付近には竈の残骸と思われる白色の粘土が60cm×50cmほどの範囲で広がっており、除去すると下面から土師器窓の破片が検出された。住居址の中央やや北寄りには80cm×75cmの楕円形の土坑がある。また床面全面には小穴が無数に分布しているが、特に規則性はみられない。しいていえば、北側壁及び周溝にいくつか並んでいること、中央土坑付近にやや集中していることである。床面には、地山ブロックと黒褐色土が混ざった貼床が5cmほどの厚さで貼られていた。遺物は住居址の埋上内及び床面、竈内から若干出土している。

#### 出土遺物 (第5図)

1～3は住居址内埋土及び床面で出土した。1は上師器の壺である。口径32.0cm、残高7.0cmを測る。口縁部は外反し、外面は淡赤褐色、内面は褐色を呈する。内外面ともにナデで調整される。径1.0mm以下の砂粒と金雲母を多量に含む。2は須恵器の蓋である。口径は25.8cmを測り、端部に弱いかえりがつく。内外面ともにナデで調整される。暗灰褐色を呈し、径1.0mm以下の砂粒を多く含む。3は須恵器の杯である。断面逆台形の高台がつく。内面はナデ、底部外面は回転ヘラケズリで調整される。灰褐色を呈し、胎土は精緻である。

4、5は竈と思われる白色粘土の下面から出土した。4は小型の土師器壺である。口径は14.0cmを測り、口縁部がやや外反し、ナデで調整される。赤褐色を呈し、径2.0mm以下の砂粒、金雲母を多量に含む。5は土師器の甕である。口縁部は外反し、内面はナデ、外面はナデとハケメで調整される。外面は灰黄褐色、内面は暗赤褐色を呈し、径2.0mm以下の砂粒、金雲母を多量に含む。

#### SC02 (第6図)

調査区の中央、北壁に切られて検出した。平面形は2.8m×1.5m以上の方形を呈すると思われる。住居址の東側壁南寄りでプランがU字状に突出しており、その部分に竈の跡と思われる白色粘土の固まりが検出された。粘土塊は25cm四方ほどの大きさで広がり、除去すると床である30cm×28cmの平面楕円形の土坑が検出され、焼土が広がっていた。また、粘土上より土師器の皿が出土した。床面には地山ブロックと黒褐色土が混ざった貼床が薄く張られていた。主柱穴らしい柱穴はみられない。また、SC01と同様、小穴が壁際を中心にみられるものの、さほど多くはない。遺物は竈付近の貼床面上につぶれた状態で出土した。

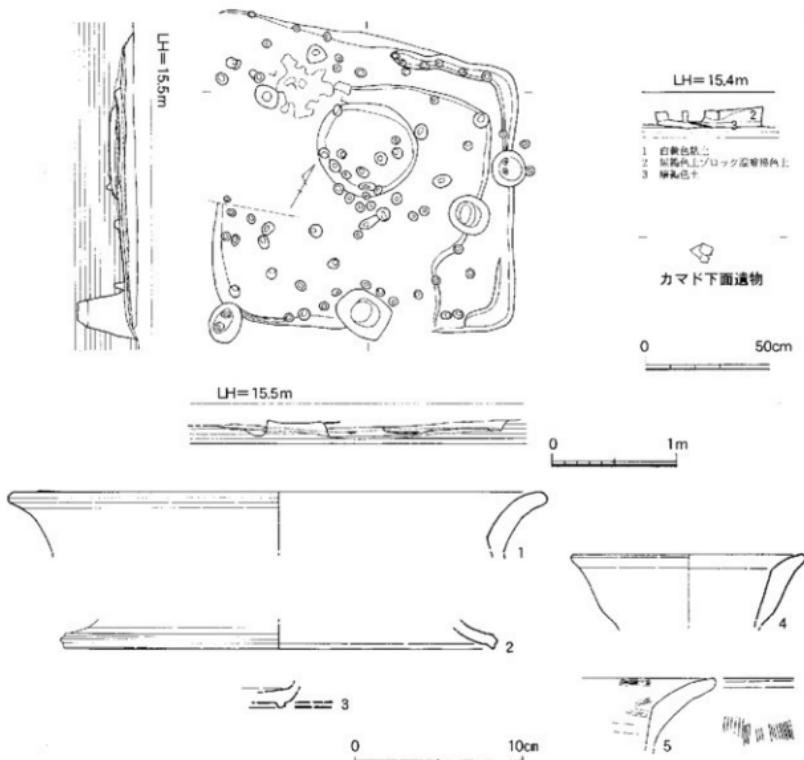
#### 出土遺物 (第6図)

6～10は住居址竈付近の床面で検出されたものである。6は上師器の壺である。口縁部は外反し、底部は丸底を呈する。口径16.8cm、器高10.8cmを測る。外面はナデ、内面はヘラケズリとナデで調整される。黄褐色を呈し、径1.0mm以下の砂粒、金雲母をやや多く含む。7、8は土師器の杯である。7は口縁部のみの残存で、直線的に開く器形である。口径は9.5cmを測り、器壁は薄い。ナデで調整される。胎土は赤褐色を呈し、径1.0mm以下の砂粒を少量、金雲母を多量に含む。8は底部付近で、おそらく7と同様の器形になるのであろう。断面逆台形の高台がつく。底径は6.5cmを測り、ナデ調整である。赤褐色を呈し、径2.0mm以下の砂粒をやや多く、金雲母を多量に含む。

9は甕である。底部がない形態を呈し、底径26.0cmを測る。内面はヘラケズリ、外面はナデで調整



第4図 造構平面図 (1/100)



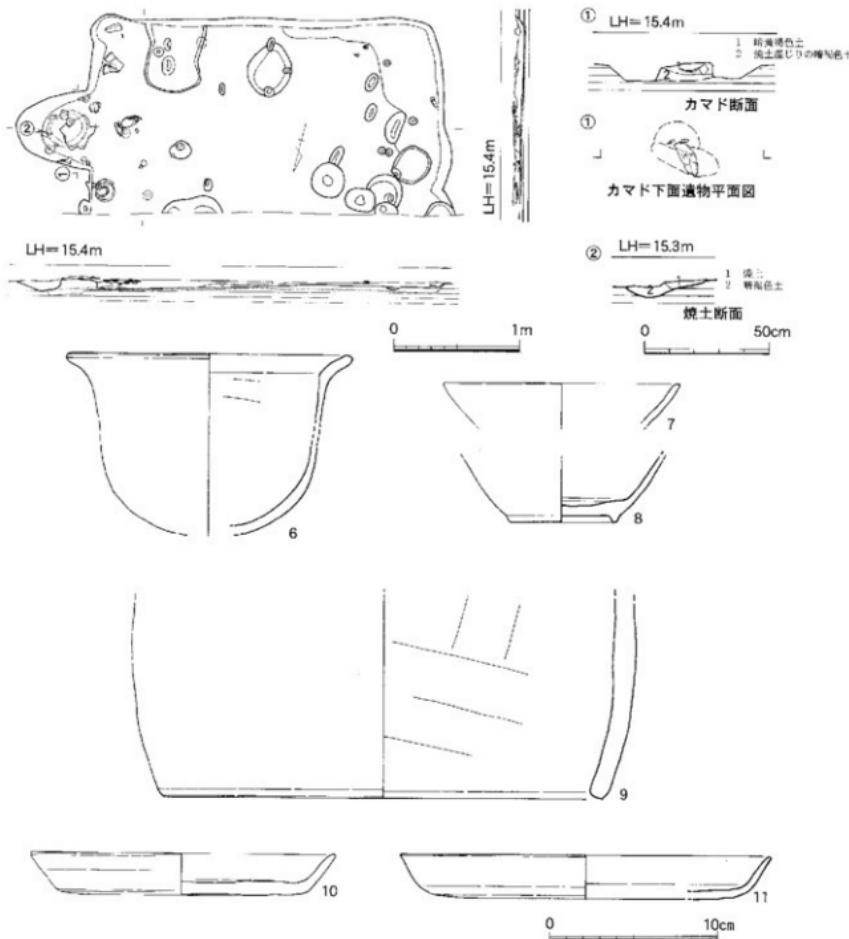
第5図 SC01実測図(1/40)、出土遺物実測図(1/3)

される。外面は赤褐色、内面は暗黄褐色を呈し、径3.0mm以下の砂粒、金雲母を多量に含む。10は上師器の皿である。口径18.0cm、器高2.5cm、底径14.8cmを測る。底部内面はナデ、底部外側は回転ヘラケツリ、あとは回転ナデで調整される。底部外側にはハケメ様調整痕が残る。黄褐色を呈し、径1.0mm以下の砂粒、金雲母をやや多く含む。

11は竈より出土した。11はやや大型の上師器皿である。口径22.0cm、器高2.6cm、底径18.0cmを測る。ナデで調整される。明赤褐色を呈し、径5.0mm以下の砂粒、金雲母をやや多く含む。炉床に堆積している焼土上で検出された。

#### SC03 (第7図)

調査区中央のやや東寄りで検出された。2.2m×2.2mの平面正方形を呈する。住居址中央が攪乱で破壊されているものの周溝はほぼ全周した。幅15cm～35cm、深さ2～7cmの溝である。竈や貼床、主柱穴は検出されなかった。ただ他の住居址と同様、小穴が多数見られたが、特に周溝内に多く分布

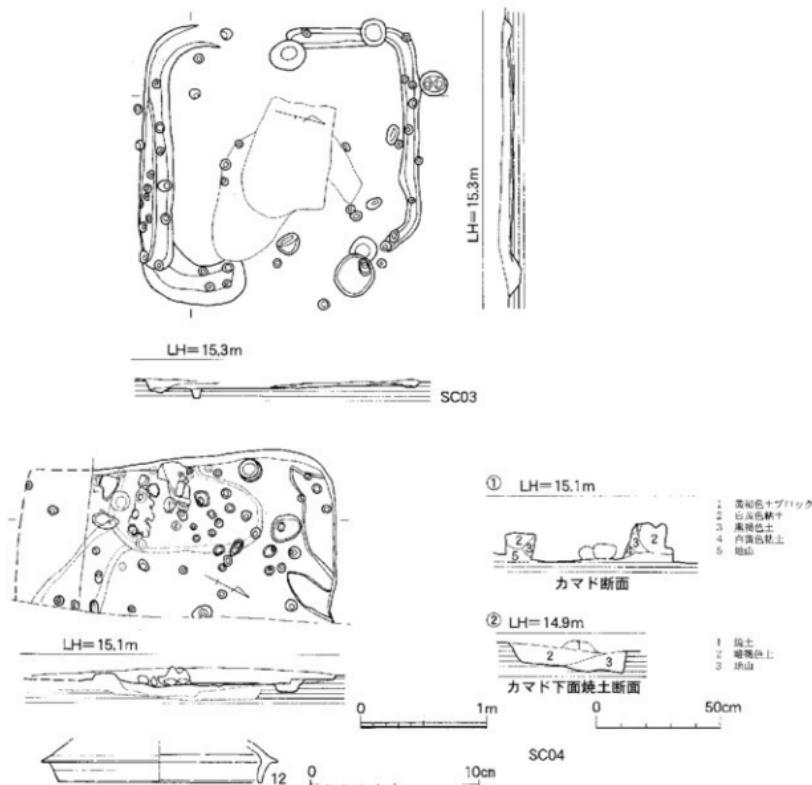


第6図 SC02 実測図 (1/40)、出土遺物実測図 (1/3)

している。出土遺物はほとんどなかった。

#### SC04 (第7図)

調査区東端で、壁に切られて検出された。住居址の南側は攪乱で残存状況が悪いものの、推定 2.5 m × 1.3 m 以上で、平面形はおそらく方形を呈すると思われる。住居址の西壁中央付近に竈の炉体と思われる白色粘土が検出された。元來の袖部をある程度残しているが、かなり崩壊している。袖部の間には焼土が広がっている。この袖部を除去したところ、120cm × 60cm を測る梢円形の炉床と思われ



第7図 SC03、SC04 実測図 (1/40)、出土遺物実測図 (1/3)

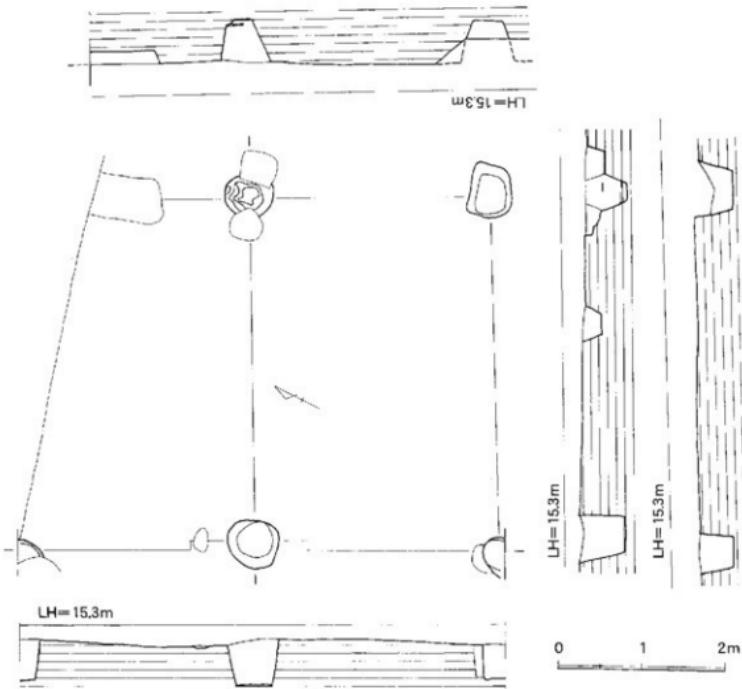
る浅い土坑が検出された。床面には地山ブロックと黒褐色土が混ざった貼床が10cmほどの厚さで貼られている。他の住居址と同様小穴が多数分布しているが、全面に広がり、規則性は見られない。周溝は検出されなかつた。

#### 出土遺物 (第7図)

12は須恵器の蓋である。口径12.1cmを測り、ナデで調整される。青灰色を呈し、細砂粒、金雲母を少量含む。

#### ②掘立柱建物 (第8図)

調査区東寄りで2間×1間の掘立柱建物が検出されている。主軸はN-28.2°-Wをとり、柱穴間の長さは、1間の方が2.1m、2間の方が、1.4～1.5mである。竪穴住居址の軸とは若干ずれ、埋上も黒褐色土であり、住居址とは時期が異なると考えられる。出土遺物は弥生土器、須恵器の小片のみである。



第8図 SB01 実測図 (1/60)

#### 4. 小 結

今回は、道路部分のみの調査ということで集落の全容はつかみにくかったが、住居址4軒、掘立柱建物1棟が確認された。

住居址は、すべて平面形は方形を呈し、内2軒が壁に切られているものの、一辺が2~3mを測る大きさである。削平を受けているため床面までの深さは明確にできないものの、内3軒に貼床が検出された。2軒に周溝が巡らされ、3軒に竈が確認されている。竈はいずれも崩壊しており、その形態は明らかにできないものの、SC04でやや原形をとどめている。いずれもが体と思われる粘土中より支脚に使われていたと考えられる土器が検出された。しかし竈の位置は、SC01は北、SC02は東、SC04は西、というようにいずれも異なる。時期差を示しているのかもしれない。また、いずれの住居址にも床面に小穴が検出された。周溝の見られる住居址では、周溝中に並んでいる状況が見て取れたが、そのほかでは特に規則性は見られず、床面全面に分布している。

少ない出土遺物から推定して、SC01は8世紀中頃、SC02は8世紀後半頃であろうか。SC03は7世紀初頭~前半頃の須恵器の蓋が出土しているが、出土遺物は少なく、時期を決めがたい。

その他、1間×2間以上の掘立柱建物1棟が検出されている。住居址の埋土が茶~灰褐色を呈する

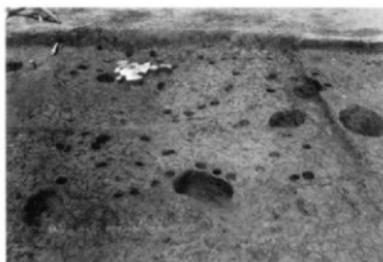
のに対し、柱穴のそれは黒褐色であり、住居址と掘立柱建物との時期差が伺える。本調査区で検出された遺構の埋土を見てみると、茶～灰褐色土と黒褐色土の2種類があり、全体として大きく2時期に分けられると思われる。さて、黒褐色土の埋土を持つ柱穴がSC02に切られていることを考えて、掘立柱建物は8世紀より古く、須恵器片が出土していることから古墳時代と推定される。

遺構面は北から南へ傾斜しており、現地形も敷地の東側が急激に落ちていること、また、未報告ではあるが、本調査区の南東側に位置する第9次調査地点で現地形に沿った中世の溝が検出されていることから、当時の地形が台地の落ち際であったことが推定される。

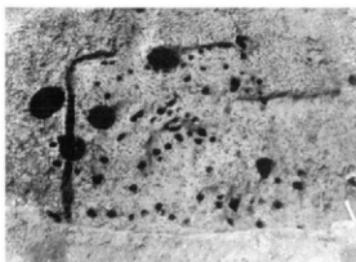
本調査地点では中世以降の遺構・遺物は検出されていないが、近接する第9次調査地点では中世後半の溝が検出されており、古墳時代・古代、中世の集落が広がっていたと推定される。



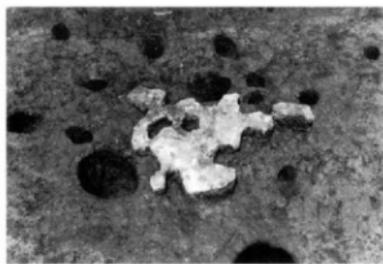
1. 調査区全景（東から）



2. SC01（南から）



3. SC01 貼床除去後（北から）



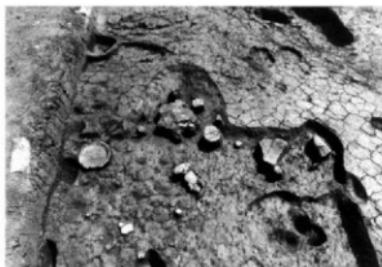
4. SC01 内窓出土状況（南から）



5. SC01 内窓断面（南から）



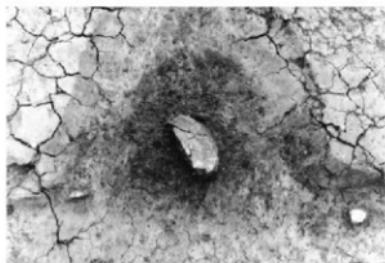
1. SC02 (西から)



2. SC02 遺物出土状況 (西から)



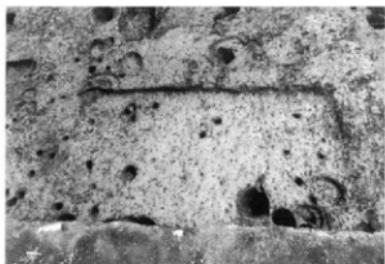
3. SC02 窪断面 (西から)



4. SC02 窪下面遺物出土状況 (西から)



5. SC02 窪下焼土断面 (北から)



6. SC02 貼床除去後 (北から)



6-8



6-9



6-10

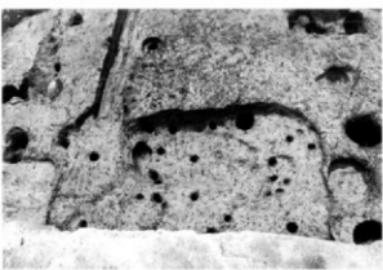


6-11

7. SC02 出土遺物



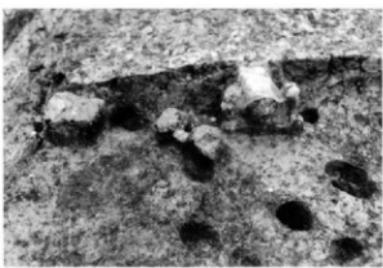
1. SC04 (東から)



2. SC04 貼床除去後 (東から)



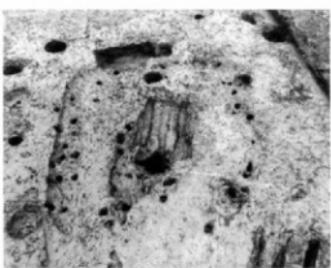
3. SC04 窟出土状況 (東から)



4. SC04 窟断面 (東から)



5. SC04 窟下面焼土断面 (東から)



6. SC03 (東から)

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 774 集

## 麦野 A 遺跡

—麦野 A 遺跡群第 8 次調査報告—

2003 年（平成 15 年）3 月 31 日

発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神 1 丁目 8-1

印刷 協文社印刷株式会社  
福岡市西区小戸 4 丁目 24-5

